

先人の知恵から

45

かうんせりんぐるうむ かかし

河 岸 由 里 子

今回は「ト行」から以下の12個。ちょっと飛ばし気味ですが、最後まで行きたいのでお付き合いください。

- 問い声よければいらえ声よい
- 同じて和せず
- 同床異夢^{どうしょういむ}
- 灯台下暗し
- 問うに落ちず語るに落ちる
- 同病相憐れむ
- 螻蛄の斧^{ろうこ}
- 遠きを知りて近きを知らず
- 遠くの親戚より近くの他人
- 十で神童十五で才子二十過ぎれば只の人^{とお しんどう さいしはたち ただ}
- 時は金なり
- 捕らぬ狸の皮算用^{と たぬき かわざんよう}

<問い声よければいらえ声よい>

こちらの出方次第で相手の態度や気持ちはどうにでも変わることのたとえ。問いかける声が良いければ、相手の答え方も自然に良くなるという意から。

親子の間でよく口喧嘩になる。例えば、子どもが門限に遅れた時など、最初から親は怒っているので、「なんで遅れたのか」と詰問口調で訊く。子どもは子どもで、叱られないように、ごまかそうとしたり、嘘を言ったり、逆切れしたりして、その結果益々親を怒らせるということが起こる。親の方が、一步引いて、穏やかに尋ねれば、子どもも正直に答えることに不安を感じないだろう。

ちょっとしたことで、良い方にも悪い方にも転がるのが、親子関係である。そういう意味でこの諺を伝えている。

<同じて和せず>

すぐに他人の意見に同調するが、心から親しむことは無い。つまらない人たちの交際を言う。「同ずれども和せず」ともいう。和＝和合、調和。出典には「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず（君子は人と調和するが主体性を失うことは無い。小人は付和雷同するが人と協力し合うようなことはない）」とある。君子と小人の差異を言った孔子のことは。 出典 論語

今の時代、SNS で、様々な意見が飛び交っている。子どもたち、否親たちも含め、情報過多の世界にどっぷり漬かっており、それこそ、正しいかどうかもわからない意見に振り回されている。

他人の意見、考えに簡単に同調し、それをまた吹聴する。そういう情報をネタにして、人とのつながりを作ろうとする。そんな繋がり本来の繋がりではない。誰かさんの悪口を言うことで、仲良しになっていこうとする小学生みたいなものだ。

情報を、よく調べもせず、考えもせずに信じ込んで、「いいね」を打ち、またその話を別の人と話題にする。そうして、様々なフェイクニュースが広がったりするのだ。そんな説明も加えつつ、情報については慎重に入手すること、確認をすること、情報を簡単に信じ込んでいる人たちと一線を引くことの必要性を伝えている。

<同床異夢>

同じ仕事をしていながら、また、同じ環境や条件にありながら、目標や考えが違うことのたとえ。一つの寝床に共に寝ていても、別々の夢を見ているという意から。「どうしよう同床おのおのゆめ各夢む」ともいう。

出典 ちんりょう陳亮 しゅげんかいにあたうのしよ与朱元晦 書

一緒に住んでいる家族であっても、それぞれ別々の個体で、別々の考えがある。自分の考えを押し付けるべきではない。夫婦の間でも、親子の間でも、よく起こることだ。同じものを見ていても、感じ方や捉え方は人それぞれ。それは家族の中でも見られる

ことである。お互いに、何を見ているのか、それを見て何を感じているのかは、確認しあわなければわからないのだ。よく、ワークで尋ねるのだが、「大きな木」という言葉からどんな木をイメージするかと尋ねると、30人いたら、多くが落葉樹のモウモウとした木を思い浮かべ、数人がクリスマスツリーのような針葉樹を思い浮かべる。そしてごくわずかの人が「この木なんの木」の木を思い浮かべ、たまーにポプラやヤシの木が出てくる。大きな木という言葉だけでもこんなに違ってくる。それは家族の中でも起こるだろう。きっと自分と同じなはず、A と言ったらこれしかない、という勝手な思い込みで進まないで、一つ一つ確認する手間を惜しまなければ、家族間の揉め事も減るのではないかと思う。

英語では・・・

One thing thinks the bear, and another he that leads him.(クマの思いとクマを引くものの思いは別である)

または Same bed different dream.とも、Cohabiting but living in different worlds. とも訳されている。

<灯台下暗し>

手近なことはかえってわからず、気が付かないものであるということ。燭台は周囲を明るく照らすが、その真下は影となって暗いことから。灯台=油の入った更に芯を浸して火をともし昔の燭台のこと。

これは誰でも知っている諺かもしれない。何かを探しているときに、手元にあるのに

遠くばかり見ていて見つけられないということが時々ある。もの探しだけではなく、身近なところで起こっていることに気づかないということもよくある。他人のことばかり指摘している人に限って、自分のことが見えていない。そんな子どもたちに、この諺はわかりやすい。人のことは見えても自分のことはあまりよく見えていないのだ。探し物と、自分自身を見ることと重ねて、この諺を伝えている。

英語では・・・

You must go into the country to hear what news at London. (田舎に行かないとロンドンの新しいニュースを耳にすることはできない。)

<問うに落ちず語るに落ちる>

人から聞かれているときは用心して秘密を洩らさないが、自分から話をしているときは、ついつい真実を話してしまうものだということ。「問うには落ちいで語るに落つる」「語るに落ちる」ともいう。落ちる＝自白する。

秘密と言うのは必ず漏れると思った方がよい。勿論守秘義務については別問題だが、子ども達や親たちの話では、「これ秘密ね。誰にも言わないでね。」と言って守られることは無い。人の口に戸は立てられない。それは以前書いたとおりである。そして、この諺のように、人から尋ねられているときは、秘密を守ろうと注意することができるのに、自分が話しているときは、注意が散漫になりがちで、つい秘密を漏らしてしまう。テレ

ビドラマなどでも時折「語るに落ちたな」というセリフを聞くことがあるが、これは大抵刑事もので犯人が罪を暴露する場面に使われている。その場面も大抵犯人が、多弁に話している中で真実の暴露が起きている。余計なことを言いがちなのは、自分が率先して話しているときなのである。自ら率先して話すときは要注意と言う戒めである。

最近は SNS での発信が殆どで、その中では無責任に人を中傷したり、周りを不快にさせるような言葉も匿名ゆえに発信したりする。面と向かって言えないことは、SNS での発信をすべきではないし、自分から発信するということで、この諺のように言わなくても良いことや秘密の暴露をしまいがちになる。この諺はそんなときの注意にも使える。

英語では・・・

The tongue is ever turning to the aching tooth. (舌は常に痛む歯のところに行く)

<同病相憐れむ>

同じ悩みや苦しみを持つ者同士は、互いの辛い気持ちがよくわかるので、慰め合い助け合うものだということ。同じ病気で苦しんでいる者同士は、その苦痛が理解できるので互いに同情しあうということから。

出典 呉越春秋

これはまさに「当事者研究会」や「MCG」(※注)、グループセラピーがどうして効果的かと言うことと繋がる。どんなに勉強しても、その人本来の痛みや苦しきは、同じ体

験をしている者にしかわからないだろう。子育て中のしんどさは、子育てしたことのある人にしかわからないし、発達障害の子を育てている親の苦しみも、発達障害の子を育ててみないとわからない。

同じ苦しみや体験をした人たちが一番お互いを理解し、支え合えるということから、この諺はグループで使うことが多い。

(注) MCGはMother and Child Groupの略で、子育て中で煮詰まっている母親のグループである。自分の気持ちを吐き出し、他の母親たちもみんな同じように悩んでいることに気づくことで、子育てに煮詰まらないようにするためのグループ。

＜^{とうろう}螳螂の斧＞

自分の力の弱さを顧みずに、強敵に立ち向かうことのたとえ。又、強がることのたとえ。カマキリが、どんな相手にも斧のような前足を振り上げて立ち向かっていく様子から。「螳螂が斧を持って隆車に向かう。」ともいう。螳螂＝かまきり。隆車＝高くて大きな車。 出典 韓詩外伝

無謀な人、身の程をわきまえない子どもを見つけると、この諺を伝えて説明する。大きな敵、巨大な力に立ち向かいたい気持ちは受け止めつつも、カマキリが車輪に勝たないように、無駄死になるような無謀さは諷めねばならない。

失敗を経験することは大事だが、まるきり歯が立たない状態であれば、それは止めるべきではないか。勿論巨大な敵でも、最初からあきらめてしまっただけは何にもならない

という言い分もある。「一矢報いる」という諺もあるし、何もしないで逃げるよりはということもあるかもしれない。ただ、一人で立ち向かうより、仲間を集めて立ち向かった方が良い。その能力があるなら、そちらに意識を向けさせるべきだろう。その場合はこの諺は当てはまらない。

自分の能力を顧みず、誇大妄想的に立ち向かうのであればこれは諷めるべきで、そういう子にはこの諺が当てはまる。子どもでは自己肥大しがちなので、そこは大人が気を付けてみていく必要があるだろう。

＜遠きを知りて近きを知らず＞

他人のことはよくわかるが、自分の事となるとわからないということ。又、遠大なことについてはすぐれた意見をもっているが、身近なことについてはわからないということ。 出典 淮南子

灯台下暗しでも書いたが、他人のことはよく見えるし、他人の悪いところは特によく見えるのだが、自分のことは全く見えていないことがある。それだけではなく、将来のことばかり言っていて、今をしっかりと考えていない、或いは地固めをしていないという人にもこの諺を使う。ぐちゃぐちゃの土壌の上に、何も建てられない。夢は大事だが、夢に向かって進めていくには、足元の一步が大事なのだ。

＜遠くの親戚より近くの他人＞

いざというときには、遠く離れたところに住んでいる親戚よりも、近くに住んでい

る他人の方が却って頼りになるということ。「遠い親戚より近くの他人」「遠い一家より近い他人」ともいう。

この諺は、母親たちによく使う。夫の転勤で引っ越してきた母親や、実家が遠い母親などは、近くに両親が住んでいる人をうらやましがる。近くに両親がいてくれたら助けてもらえるのにと。また、最近は両親との関係性が悪い母親も増えた。そうすると、子育てを助けてもらえる人をほかに見つけなければならない。最近は様々なサービスが増えた。ファミリーサポートセンターやシルバー人材センターもあるし、レスパイトなどもある。しかし、一番助けてもらえるのは、ご近所さんではないだろうか？筆者も実家が遠かったので子育て中は、隣の家などのご近所さんや、近所のお店のおばさんなどに随分世話になった。象さんの子育てのように、今はみんなで子育てをしていく必要がある。近所には子育てを終え、子どもたちも遠くに行ってしまうと、孫育てもできない、気のいいおじさんおばさんが沢山いる。その人たちも、子育てを手伝うことで、生きがいを見つけられたりするのだ。お互い様でやっていけたら一番である。他人と関わるのが苦手な人が増えたが、様々な支援の一つとして、考えてもらうようにしている。

とお しんどう
＜十で神童＞

さいしはたち ただ
十五で才子二十過ぎれば只の人＞

幼いころは並外れて才知のあるように見えた子も、成長するにつれてごく平凡な普通の人間になってしまうということ。十歳の頃は神童と言われた人が十五歳になると

才子程度になり、二十歳を過ぎると平凡な人になってしまうという意から。「十で神童十五で才子二十歳過ぎては只の人」ともいう。

子どもは、保護者がびっくりするような力を見せる時期がある。そんな時期に「うちの子天才かも」と思う保護者も多い。スポンジのように何でも覚え、吸収していく様子に、びっくりする。しかし、そのまま、ずっと大人になるまで伸びていくということは無いのである。さかなクンや藤井聡太さんのようにずっと一つのことに秀でた人はいるが、凡人は二十過ぎればただの人なのだ。あまり期待しすぎず、本人が得意なことは伸ばしてあげようという程度で行くのが良い。得意そうだからと徹底的にやらせたら、きっと嫌いになって出来なくなってしまうこともあるので要注意。

英語では・・・

A man at five may be a fool at fifteen.(
5歳で大人並みの子は15では馬鹿と言うこともあり得る)

＜時は金なり＞

時間は非常に貴重で、金銭と同様の価値がある。無駄に使わないでよく励み務めるべきだという戒め。英語の Time is money. から。

昨今、スマホや PC に依存する子どもや大人の問題が取りざたされている。かつてはゲーム依存が主であったが、最近は YouTube や TikTok などの動画配信が主

である。何時間もそうしたものに時間を費やしている。その結果ストレートネックの問題も起きているし、身体機能の低下も問題とされている。筋トレに時間を費やす人、趣味の麻雀や競馬・競輪等に時間とお金を費やす人、人それぞれである。自分の時間をどう使おうと自分の勝手と言うのは正しい。大人は自分の行動に自分で責任を取ればよい。しかし子どもはどうか。問題は健康体の維持と脳への影響。これは子どもに特化する。何時間も、スマホやタブレット、PCなどの画面を見続けていることの弊害と、観ている内容による弊害、更には、考えることやコミュニケーションが減ることでの弊害であろう。

子どもたちは、昔のテレビと同じで流行りの動画を観ていないとクラスの会話についていけないし、ゲームで育つ友情もある（最近のゲームはほぼ協力プレイ）。従って一概にゲームや動画を見ることを禁止するという話ではない。長時間というのが問題なのである。1, 2時間ゲームや動画を楽しんだところで問題はない。しかし体を動かしたり、本を読んだり、何かを造ったりなど、ゲームや動画を見ることを除いた、自発的な行動を増やすことが大事なのである。小児科学会では、長時間のゲームや動画視聴の脳への影響として、前頭葉への血流の不足がもたらす情動調節機能の低下など、幾つかの問題の可能性を挙げている。

YouTube には勉強するものもあるので、そういうものを利用するのは有用だろう。だが、子どもたちが見ているのは、ゲームの実況動画や配信だったりする。面白い、楽しいから続くだろうし、何時間でも飽きないのだろうが、人生は限られている。夢中にな

っているときは気付かないが、もっといろいろなことを知る時間、学ぶ時間、体を整える時間にも意識を向けてほしいと思う。

＜捕らぬ狸の皮算用＞

不確実な事柄に期待をかけ、それを当てるに色々計画を立てることのたとえ。
まだ狸を捕まえないうちから皮を売って儲ける計算をするという意から。

たまに、この諺がそのままと言う人に出会う。生まれてくる子の将来を考えている親である。まだ生まれてもいないのに、この子は、英才教育を受けさせてとか、××学校に入れて、医学部にとか……。夢を見るのは仕方ないが、親の決めた人生にあてはめられる子はたまったものではない。本人がどのような力を持っているかは、育てる中でしかわからない。先ずは丈夫な子を産むこと、生まれたら健康に育てることくらいでよい。そんな先のことを今から言ってみたって意味がないのだ。

子どもでも、時々この諺に当てはまる子がいる。宝くじを買って、3億円あてて、悠々自適で暮らすとか、YouTube で動画配信して、広告貼って、それでお金稼ぐとか言っている。昔は、ミュージシャンになってお金稼ぐと言っていた子や、タレントや声優で稼ぐと言っている子がいたが、最近は動画配信を考えている子が多いなと感じている。

動画に広告を貼ったところで、再生回数が100万回とか、1000万回とかという、いわゆるバズったら、お金も入るだろうが、数十回くらいではコンビニでおにぎりも買

えない。その現実をしっかりと伝えないとい
けないので、この諺はちよくちよく使う。

英語では・・・

Sell not the bear's skin before you
have caught him.(熊を捕らえる前に熊の
皮を売るな)You count your chickens
before they be hatched.(ひよこが孵らぬ
うちにその数を数える)

出典説明

論語・二十編

儒教の経典。「大学」「中庸」「孟子」とと
もに四書の一つ。孔子の言行や門人たちと
の問答を記録した書で、孔子の死後に門人
たちが編集したものといわれる。孔子は諸
国を回って仁の徳による政治を説いたが、
本書は孔子の人物や思想を知るうえできわ
めて重要な資料である。

陳亮ちんりやう 与 朱元晦書しゅげんかいにあたるのしよ・・・

陳亮は、南宋の儒学者、字は同甫・同父。
号は龍川。事功派永康学派の雄。朱熹の論
敵として知られる。朱元晦とは、朱熹のこと。

吳越春秋・・・

春秋時代の吳・越両国の興亡を記した書。
後漢の趙曄ちやうようの撰。吳は太伯たいはくから夫差ふさまで、
越は無余むよから勾踐こうせんまでの間のことが記さ
れている。十巻本と六巻本がある。

韓詩外伝・・・十巻

「詩経」の解説書。先秦時代の話・古語
と「詩経」の詩句を関連づけて開設した
書。前漢の韓嬰かんえいの著。「内伝」と「外伝」
があったが、現存するのは「外伝」十巻だ
け。「かんしげでん」とも読む。

淮南子えなんじ・・・内編二十一巻

紀元前二世紀、前漢の武帝の初期に成立
した哲学書。編著者は、前漢の高祖劉邦の
孫である淮南王劉安わいなんおうりやうあん。無為自然の道家思
想を中心とし、政治・軍事・天文・地理な
どにわたって、諸学派の説を収めている。
内編二十一巻・外編三十三巻があったと
されるが、現存するのは内編二十一巻。

参考文献：以前にも掲載したが、此処に載
せている故事・諺及び出典説明は「新明解
故事・ことわざ辞典」三省堂編修所編 より
転載させていただいている。